

授業づくりに必要な五つの心構え 自立とボランティア教育

連載⑩

大阪教育サークルはやし 荒井 賢一

自立とボランティア教育の必要性

杉山登志朗『発達障害の子どもたち』
(2007.12 講談社) の中に、自立とは何か
ついて書かれたところがある。

1. 自分で生活できる。
2. 人に迷惑をかけない。
3. 人の役に立つ。

こうして単純化をさせてみると、仕事を
得てタックスペイヤーになり、さらに社会
的なルールを守ることができていれば、自
立という課題は達成できたということにな
る。(32頁)

タックスペイヤーとは「納税者」という
意味である。税を納めるだけで、自ずとそ
れは他の人のためになつているといえる。
子どもたちが税を納めるのは、ずいぶん
先のことになる。学校教育では、人の役に
立つボランティア教育を行いたい。

ボランティアについて考える

西アフリカのシエラレオネ共和国を総合
の授業で扱った。

「戦争が12年以上も続いたことで、学校や
病院が壊され、食べる物も少なくなり、
子どもを含めた多くの人が亡くなりまし
た。平均寿命は、35歳で、世界で一番い
のちの短い国といわれています。」

山本敏晴さんという人が、ボランティア
として、シエラレオネに行った。

「ボランティアをするとして、どんなこと
をするといいですか。」

- ・ 食料をあげる。 ・ きふする。
- ・ かんごふをつれてくる。
- ・ 病院をたててあげる。
- ・ 薬をもっていく。 ・ 学校を建てる。
- ・ けがの手あてをする。
- ・ 病気をなおす人をさがす。
- ・ 元気になつてもらうために、手紙を
書く。

発表の中の「薬を持っていく」や「薬を
送る」などを取り上げる。

「薬を送ることがいいと思う人は○、いや
ちよつと問題があるんじゃないかと思う
人は×を書きます。」

あるクラスでは、○が22人、×が9人だ
つた。両方とも理由を発表させるが、×の
理由が重要になる。

- ・ 薬の量をまちがえたらかえって危険。
- ・ その薬の飲み方、飲む時間などが分か
らないとあぶないから。
- ・ 薬のみかたや注射などのやり方をまち
がえたらこまるから。
- ・ 変に薬を飲みすぎて逆にあぶなくなつ
た。副さ用がでたら困るから。
- ・ 薬がその人の体にあつてない場合もある
から。

「貧しさに苦しんでいる国ですから、薬を
送ると、病気が偽って薬をもらい、それ
を売る人が出てきます。安い薬が正しい
処方をされずに売られるために、かえつ
て病気を悪化させたり、病原菌が強くな
つたりします。」

安い薬が正しく使われないと病原菌が強

くなり、より高い薬でしか病気を治せなくなってしまう、援助が難しくなってしまうのである。

「山本敏晴さんは、ボランテティア医師としてシエラレオネ共和国に行きました。まずは、病院を直し、地元の看護師さんを雇いました。でも、困ったことがあります。」

困ったことを予想させた後、

「地元の看護師さんは学校教育を受けてないので、温度計が読めないのです。」

まずは、看護師さんに温度計の使い方や点滴の仕方などを教えることから始まったのです。たんに薬を送るだけでなく、その国が自立できるようなシステム作りをすることが大切だと、山本さんは言っています。」

相手の自立を考えたボランテティアを

「魚を与えれば一日の飢えをしのげるが、魚の釣り方を教えれば一生の食を満たせる」という格言がある。

ボランテティアを考える上で、この格言を頭に入れておきたい。

困っている人を助けたい、という子どもたちの純粹な気持ちは、大切にしたい。

ただ、ボランテティアをしてあげる行為だと考えてしまうと、その行為が相手のためにならない場合が生じる。

困った現状にある人たちには、その人たちの力だけではどうしようもない現実がある。だが、その人たちが自身でできることまでお手伝いすることは、むしろボランテティアとはいえない。

「してあげる」の裏返しは、「してもらおう」である。助けてもらうことをしてもらおうとだと勘違いしている子は、自立から遠いのである。

相手の自立を考えたボランテティアを行える人こそが、自立した人間なのである。

自立した教師とは？

己自信に問いながら、読者のあなたにも敢えて問おう。

「教師として自立しているか？」

冒頭に紹介した杉山氏の自立の定義に当てはめるならば、

1. 自分で授業・学級経営ができる。
2. 他の教師に迷惑をかけない。
3. 他の教師の役に立つ。

毎日毎日休まずに通勤し、日々、学級で授業を行い、学級指導できているだけでも1と2はできているといえる。

ただ、本当の自立には、他の教師の役に立つ行為も必要になる。

校務分掌を滞りなく行うこともその一つだろう。

それ以上に、学力研究会員のあなたには、自分の日々の実践を書き留め、それを発信してほしい。

自分の学び・努力を他の教師に分かち伝えることをしてほしい。

物が燃え続けるには、空気の通り道、すなわちインプットとアウトプットが必要になる。

この原稿を読んでいるあなたは、今、インプットしている。次は、あなたがアウトプットする番なのである。

あなたのアウトプットを期待しつつ、この連載を終えたい。